

令和 7 年 3 月 11 日
サル対策専門部会

令和 7 年度神奈川県ニホンザル管理事業の実施に向けた議論のポイント

1 新しい集団の確認

(参照：資料 2 __令和 7 年度神奈川県ニホンザル管理事業実施計画(素案) 図 1、表 5)

- ・ 厚木市及び伊勢原市に跨る地域で新たに小規模な集団*を確認、管理事業の対象となる群れとして実施計画に追加する。
- ・ 行動域は既存の鐘ヶ嶽群と重複するが、鐘ヶ嶽群から分派した集団ではない可能性があるため 新たに岡津古久集団と呼称する。

※集団：十分なモニタリング調査が行われておらず通年の行動域・個体数が不明であるが、隣接する群れとは独立した行動域をもつと推測される数頭から数十頭のサルの集まり（第 5 次神奈川県ニホンザル管理計画より）

2 一般・関係機関研修事業の実施

(参照：資料 2 __令和 7 年度神奈川県ニホンザル管理事業実施計画(素案) 18 ページ)

県の令和 7 年度からの取組として、地域住民等の多様な主体に対し、サル関係を含め鳥獣の生態や被害対策に関する研修を実施する（令和 7 年度は各地域 1 回ずつ実施予定）。

3 群れ管理の方向性

(参照：資料 2 __令和 7 年度神奈川県ニホンザル管理事業実施計画(素案) 別表 2)

- ・ 川弟 B 1 群は目標頭数を現在の 50 頭から 40 頭に変更する。
生息状況調査で目標頭数と同数の 50 頭であることが確認されたが、現在もなお相模原市や愛川町を中心に農業被害が発生し、人慣れが進んで管理が難しくなっているため、追払い等の管理がしやすい頭数まで目標頭数を引き下げるもの。
- ・ K 1 群は目標頭数を現在の 50 頭から設定なしに変更する。
生息状況調査で 41 頭を確認後、山梨県上野原市での個体数調整が進み、個体数が目標と乖離しているため（10 頭以下の見込み）、本県での積極的な群れ管理は実施しない方向とし、今後は群れの動向に応じて個体数調整等の対策について検討する。
- ・ 岡津古久集団（仮称）は、十分な被害状況・生息状況が揃わない段階では、群れ管理の方法については維持方針、目標頭数設定なしとする。